

2024. 1. 23 紙飛行機遊びから① ～いろいろな関わり方や自分のタイミングの保障～

冬休みが明けて2週目のある日、廊下で、折り紙で折った紙飛行機を二つ持って歩いている年中の A ちゃんと会いました。「紙飛行機だね」と声をかけると、持っていた二つの紙飛行機を一つ一つ飛ばして見せてくれる A ちゃん。どこまでとんだか、紙飛行機が着地したところにビニールテープで印をつけてみることにしました。もしかしたら後からやりたいと言ってくる子がいるかもしれないと思い、名前を書いて貼るビニールテープは、多めに用意しました。

二人で飛行機飛ばしをしていると、年中の B くんが「僕もやりたい」と言ってきました。でも紙飛行機の折り方を知らないとのこと。B くんは A ちゃんと一緒に保育室の折り紙のあるところに行き、A ちゃんに折り方を教えてもらって、自分で作った紙飛行機を持って廊下に戻ってきました。B くんは、体を動かすことが得意で、すぐに A ちゃんより遠くまで紙飛行機を飛ばして記録を更新していきます。A ちゃんは、B くんに折り方を教えた時に一緒に作ったと思われる三つ目の紙飛行機を手にしていました。そして、今度は、持っている紙飛行機を三つとも重ねて飛ばしました。三つの紙飛行機が重なったまま飛んだのはほんの少しだけで、すぐにばらばらになって着地しました。それが面白かったのか、ずっとポーズをとる A ちゃん。この後、A ちゃんは、ずっと紙飛行機を重ねて飛ばすやり方を楽しみます（最終的には五つの紙飛行機の重ね飛ばしに）。

C くんは、紙飛行機飛ばしが始まった時からそばで見えていました。C くんは、A ちゃんや B くんが紙飛行機が着地したところに行き、何回かビニールテープを貼り変えようとしてくれようとしています。そこで、私が、「C くん、ありがとう。紙飛行機が着地したところを見て、今より遠くに飛んでいたらテープを動かしてくれるかな。」と頼むと、飛行機の着地点を見てさっと動いてテープを動かしてくれます。その頃、年中の D くんも「やりたい」と言ってきて、A ちゃんがまた紙飛行機の折り方を教えてくれました。そして、A ちゃんの紙飛行機は四つになりました。

次はそこに、年中の E くんが、ピンクのビニールテープに○や×の印を書いて持って来ました。E くんは、紙飛行機を飛ばそうとしている B くん、「ちょっと待って」と言い、手に持っていたピンクのビニールテープを床に貼ります。E くんは話を聞くと、紙飛行機が着地するところを予想してテープを貼っているらしいことが分かりました。○の印のところに来たら予想が当たったということになるのだとのこと。

「紙飛行機飛ばし」で、子供たちはできるだけ遠くに飛ばしたいと思うのかと思っていましたが、紙飛行機を重ねて飛ばして楽しんだり、紙飛行機の着地するところを予想したり、そして、飛ばさなくてもテープを動かすという役割を楽しんだり、いろいろな関わり方が保障されているから、どの子も楽しく遊べる「紙飛行機遊び」なのだと思う時間でした。この後に来た年中の F くんも、A ちゃんと同じように紙飛行機を重ねて飛ばすことで楽しんでいましたが、A ちゃんと違い、重ねている紙飛行機は全部違う折り方でした。

その日、紙飛行機遊びは、「好きな遊びの時間」の間ずっと続けました。最初はテープを動かしたり、着地点を予想したりしていた C くんや E くんが、後半は、紙飛行機飛ばしの列に並んで飛ばすようになりました。みんなが何度も飛ばして楽しんでいるのを見て、やってみたくなかったのかもしれませんが。二人とも、なかなかいい飛ばし方で、廊下の半分ぐらいのところまで飛ばせています。紙飛行機を飛ばすため

の体を動きのイメージをつくることができたのかもしれません。自分のタイミングで関わることで遊べる遊びの包容力は素晴らしいです。

この日の保育後、職員室で、紙飛行機遊びの子供たちの様子を伝えながら、「遊びにいろいろな関わり方やタイミングが保障されていることは大事だね」という話をしていたら、「いろいろな子供の思いが入ってくると遊びがごちゃごちゃしてしまうこともあるけれど、そういう子供の思いを調整しながら、どの子にも居場所があって心地よい遊びの環境にすることは、保育者の役割として大事だよ」という話にもなりました。やはり、子供の姿をもとに語り合うことは大切です。

